

展示「古今和歌集」諸本いろいろ

期 昭和57.10.25〜11.6
於 図書館3F閲覧室

古今和歌集

古今和歌集の「古」とは、萬葉集以後を、「今」は撰集当時をさし、萬葉集以後當時に至る迄の歌を集めたものとの意といふ。

この古今和歌集の諸本には異本が数多く存している。高野切(伝・貴之筆)、筋切(関戸家蔵)、本阿彌切などの断片も多い。全巻揃として最古のものは、元永本(三井家蔵)といわれている。その他、清輔本(前田家蔵)、俊成本(榊原家旧蔵)等、多くの諸本があるが、その中で複製版であるが、元永本、関戸本、寂惠本を中心として展示しました。

(1) 元永本 古今和歌集 二冊 (複製版)

伝 源俊頼筆 元永三年(1122)に筆写されていることから、この名称がある。古今和歌集の全巻揃としては最古のもの。内容は定家本と異なり、歌数が多く、語句の相違が甚だしい。

(2) 関戸本 古今和歌集 一帖 (複製版)

伝 藤原行成筆 「平安中期」写。枡形本 関戸家蔵によるこの名称がある。高野切に次ぐ古写本であり、一首完全なもの二百三十二首、半首が十という古今和歌集の総歌数約千百首の約五分の一を遺しているという飯島春敬氏の説がある。

(3) 寂惠本 古今和歌集 二冊 (複製版)

弘安元年(1720)写。列帖装 寂惠本の呼称は、その奥書の「弘安元年土月上旬以證本書寫訖」

又 梁門 寂惠

此集讀授英倫訖 (華押) L

による。

(4) 古今和歌集 読曲・清濁 (常磐松文庫)

写本二冊(乾・坤)③半紙判 安永五年(1776) 敬義斎長周写 二条家相承秘伝の読曲・清濁を朱注してある。

(5) 古今和歌集 蚊田蒼生 校訂

版本二冊 ④豆本 東京・江島伊兵衛 明治18年刊 古今・後撰・拾遺 一帙の内の古今二冊である。

※次回展示は、「百人一首」(期11.8〜11.20)を予定しております。

書誌学序説(山岸徳平著)より

① 枡形本(ますがたほん) 料紙を横に二折し、それを六半本と称した。六半本は大体真四角である。真四角の本を枡形本とも言う。伝西行筆の一条撰政集などはその例である。

② 列帖装(れいじようそう) 胡蝶装の一種で、本文を何枚か重ね、今日のノートブックのよつた「括弧」系で、かがり、数括をフブリ合せてた装訂。前後の表紙は、多く別々。列葉装、綴葉装ともいふ。
(「図書館学辞典」長澤規矩也編著)

③ 半紙判(はんしはん) 半紙は大体、現在の大奉書紙の大きき縦一尺三寸、横一尺七寸を半分に切つたものである。半紙本は、この半紙を二つに折つた大ききの本で、菊判とほぼ同型である。
一尺³/₃₂cm 一寸³/₃₂cm 約

④ 豆本(まめほん) 小本は半紙本の半分か、それより小型の本をも総括して呼ぶ。豆本は、小本の半分以下のもので、枡形本とも言われる。